

# 平成27年度自己評価及び学校関係者評価書

平成28年2月25日  
江別市立野幌小学校

## 1. 本校の重点目標

- ◎小規模特認校の特性と地域の特性を生かす。
- ◎体験を通して子どもたちのよさを引き出す。

## 2. 自己評価表

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	特認校としての特色ある教育課程の編成・実施と学習指導の充実	A	地域の特色を生かした教育課程を編制し、地域素材・人材の活用を図るとともに、指導と評価の一体化を進める。	A	A
	愛林班活動の活発化と子どもたちとのふれあいの推進	B	愛林班活動においては、子どもたちの声をしっかり聞き、より充実したものになるよう改善を進める。	A	A
	体力向上の取り組みと保健・安全教育の推進	A	子どもたちの実態を的確に捉え、授業改善や日常的な学校生活における体力向上に向けての取り組みを進める。また、生活リズムの確立など、家庭との協力を大切にし、共通理解のもとで進める。	A	A
	共に子どもを育てる保護者・地域との連携・協力	A	本校の教育方針・教育活動について、保護者・地域に積極的に発信するとともに、学校に対する要望にも耳を傾け、双方向の関係を築くようにする。	A	A
教育課程・学習指導	地域素材・人材の活用、原始林の活用等、学ぶ楽しさを味わうことのできる教育活動を推進する。	A	原始林や地域素材・人材を積極的に活用し、体験活動を通して学ぶ喜びを実感できるようにする。	A	A
	習得・活用・探求の場を設定し、合同授業など指導体制の工夫・改善を図る。	A	学習サポート教員や管理職を適切に配置し、きめ細かな指導が可能な指導体制を整えるとともに、子どもたち相互の学び合いが成立する集団へと育てる。	A	A
	言語活動の充実、家庭学習の定着等により学習習慣の確立を図る。	B	ホワイトボードや書画カメラ、電子黒板などを活用し、より一層、言語活動の充実に努める。保護者と共通理解を図り、学習内容や学習時間において、しっかり目標を設定し、それに向けて取り組むようにする。	A	A
生徒指導	異学年の集団活動や縦割り班(愛林班)活動を通して好ましい人間関係を構築させる。	B	全校での活動や異学年での交流の機会を通して、高学年には責任感を、低学年には仲間との協調性を育む態度を今後も育成する。	A	A
	日頃よりいじめの実態把握に努め、組織的に迅速に対応する体制が整備されている。	A	「野幌小学校いじめ防止基本方針」の見直しを図り、より実効性のあるものに整備を進める。	A	A
教職員・保護者・地域の連携	教職員全員が児童全員を指導する体制を構築し、心のふれ合いを大切にしている。	A	愛林班活動・清掃活動・野小タイムなど、縦割り班での活動を中心にして、全職員が全児童を指導することを合い言葉に、温かく、時には厳しく、子どもたちの成長のために指導にあたる。	A	A
	学校・保護者・地域が連携、協力して共に子どもたちを育てるという考え方を共有して日常の教育活動を推進する。	A	今年度、学校便りはもちろんのこと、ホームページの毎日の更新、一斉メールシステムの導入でタイムリーな情報発信をめざしてきた。今後も双方向の関係になるよう、より一層コミュニケーションを図る。	A	A
	PTA活動・育成会等の地域の活動に進んで参加し、協調関係を深める。	B	本校の課題である「児童数増加」のためにも、さらに学校・PTA・地域が連携し、様々な活動を活発化させる必要がある。PTA役員を中心にして、野幌小学校を盛り上げていくための具体的な活動について検討を進める。	A	A
体力づくり	体育の授業や全校的な外遊び、野小タイムなどの体力の向上と健全な心身の育成を図る。	A	今後も外部から専門家を講師としてお招きし研修会を開催するなど、日常的な体育の授業のより一層の充実を図るとともに、様々な遊びを通して、児童の体力向上をめざす。	A	A

### 【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

- 野幌原始林が学校のすぐ存在するという恵まれた環境を生かし、特認校として今後も特色ある教育活動を推進してほしい。
- 保護者・教職員の声より、子どもたちがさらに地域で学び、地域住民がもっと学校に足を運ぶことを期待することを望んでいることがうかがえた。野幌地区に住む一員として、様々な場で野幌小学校の教育について説明し、学校が身近に感じることができるよう、そして関わりを今以上持つことができるように働きかける。学校も積極的に地域に発信し、地域との連携を密にするよう取り組むことを期待する。
- 予算面などでも、かなり学校が厳しい運営をしていることがわかった。できるだけ手助けできるように、関係機関で協議していきたい。
- 次年度、子どもたちが挨拶がさらによくできるよう、力を入れて指導するという説明があった。挨拶は人と人との良好な関係を築くために最も大切な事である。家庭はもちろん、地域住民も子どもたちに積極的に挨拶し、お互い気持ちよく生活できるよう、働きかけていく。
- 野幌小学校は基礎的な知識もしっかり定着している子どもが多いということがわかった。今後も問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れながら子どもたちの持っている力を最大限発揮できるように、実りある教育活動を展開してほしい。